

将来に誇れるまちに

各界が連携 協議会と新会社設立

陸前高田

陸前高田市の復興に向け、市内外の産業界や各種団体、大学などが連携した「生命環境産業復興協議会」と、その首利事業を担う新会社「なつかしい未来創造㈱」は23日、設立した。竹駒町の陸前高田ドライビングスクールで設立総会と記念発表会が開かれ、関係者は将来に誇れるまちづくりを目指して意見を交わした。

会場には、関係者をはじめオナーサバーの県沿岸広域振興局や市、陸前高田商工会の代表者ら20人余りが出席した。

同協議会は、地域の信頼の絆と自立の誇り、伝統、そして豊かな自然を基盤として、共通の対話の場をつくり、多くの対話から生まれきた市民の知恵と自然の資本をかたちにする活動を展開。地域資源の特性を生かしたまちの再生や、産業



市内外の5企業で設立した新会社の記念発表会＝竹駒町

復興を地域主体で創造していく。その後の理事会では、岩手大学工

学部の水水健司教授を代表に選任した。

新会社の設立記念発表会では、先の総会で社長に就任した田村氏があいさつ。役員らが事業内容を説明した。

同社は、市内の中小企業など5社で設立。

「みんながニコニコできる地域を創るため、人々が共感する企業をたくさん生み出し、まず」を企業理念に、各種ビジネスを生むインキュベーション企業を目指す。資本金は300万円。有限会社で経営期限は10年。

主な事業は①自然資本タウン②なつかしい未来商店街③グリーン・サービス④伝統技術継承⑤ICT(インフォメーション・コミュニケーション・テク

ノロジー)⑥社会起業家育成⑦の六つ。このうち、②では仮設商店街を11月に設置し、①で取り組む太陽光発電も導入予定。商店街としての自立も促す。

参加者からは「買っ人に最高の気遣いを見せる商店街に」「客層などを検討する必要性がある」などの意見が寄せられた。

関係者らは今後もアイデアを出し合いながら、事業の実施に努めていく。